

さが県議会だより

令和4年1月臨時会・
2月定例会・4月臨時会



1月臨時会 概要 (会期 1月26日)

1月臨時県議会では、佐賀県全域が新型コロナウイルス感染症の「まん延防止等重点措置」対象区域となったため、営業時間短縮等の要請に応じた飲食店へ交付する協力金の所要額、約36億5,523万円を追加する令和3年度一般会計補正予算の議案が審査され、原案のとおり可決されました。

2月定例会 概要 (会期 2月17日～3月18日)

2月定例会県議会では、県政運営の基本方針や新型コロナウイルス感染症への対策などの議論が行われました。

令和4年度当初予算案については、「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」を基本理念に編成された一般会計予算案などの議案が提出され、17件の予算案が原案のとおり可決されました。

また、佐賀県議会の議員定数を38人から37人に変更等を行う「佐賀県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例の一部を改正する条例案」が原案のとおり可決されました。

○令和4年度当初予算関係

- ・令和4年度一般会計予算（総額5,710億5,800万円、対前年比2.6%増）
- ・災害救助基金特別会計予算、工業用水道事業会計予算 など計17件

○令和3年度補正予算関係

- ・令和3年度一般会計補正予算（総額6,409億5,137万円、対前年比2.7%増） など計17件
- ※予算案以外は最終ページに記載しています。

4月臨時会 概要 (会期 4月19日～21日)

4月臨時県議会では、副議長及び競馬組合議会議員の選挙が行われたほか、各常任委員会、各特別委員会及び議会運営委員会の委員の選任並びに正副委員長の互選が行われました。

このほか、「監査委員の選任について」の議案が同意されました。

主な内容

- ・1月臨時会、2月定例会、4月臨時会の概要など 1
- ・本会議質問 主な代表質問と15人の議員が行った主な一般質問と答弁要旨 ... 2～5
- ・委員会の概要 各常任・特別委員会の主な審議事項等 6～7
- ・委員会構成、2月定例会で可決された条例、意見書など 8

「インターネット議会録画」
や「会議日程」、「会議録」など
がご覧いただけます。

佐賀県議会

検索





質問議員 ※質問順

代表質問

2月25日(金)

- 定松 一生 (自由民主党)
- 藤崎 輝樹 (県民ネットワーク)

一般質問

3月1日(火)

- 川崎 常博 (自由民主党)
- 徳光 清孝 (県民ネットワーク)
- 井上 祐輔 (共産党)
- 田中 秀和 (自由民主党)
- 一ノ瀬裕子 (自由民主党)

3月2日(水)

- 古川 裕紀 (自由民主党)
- 土井 敏行 (自由民主党)
- 八谷 克幸 (自由民主党)
- 石倉 秀郷 (自由民主党)
- 木村 雄一 (公明党)

3月3日(木)

- 稲富 正敏 (自民党・郵の会)
- 桃崎 祐介 (自由民主党)
- 弘川 貴紀 (自由民主党)
- 野田 勝人 (県民ネットワーク)
- 木原 奉文 (自由民主党)



各議員の質問一覧は
佐賀県議会ホームページで
ご確認ください。

政策・総務

県政運営の基本方針

問 知事の2期7年間を振り返ると、佐賀県総合計画の基本理念に掲げる「人を大切に」という言葉が象徴するように、県民の目線に立って、県民の気持ちに寄り添い、県政運営に当たってこられた。2期目の仕上げに向け、令和4年度の県政運営に、知事はどうのような方針で臨もうとしているのか。

答 新型コロナウイルス感染症対策と豪雨災害対策に全力を挙げ、いくことを第一義としつつ、その上で令和4年度は改めて人づくりに力を込める。

全ての基軸は人である。自発の地域づくりを担う人材をもっと呼び込み、スポーツや文化の力を生かした人づくりの好循環をより大きくしていきたい。そして、教育県佐賀として子どもたちをさらに骨太に育てていきたいと考える。

時代の変革期である今だからこそ、人に投資していくことが必要であり、様々な分野において、佐賀で育てられること、育成されることが大きな付加価値を生み出していけるよう「人づくり大県さが」を進めていきたい。

SAGAサンライズパーク

問 令和5年春にグランドオープンを迎えるSAGAサンライズパークでは、全国規模の大きな大会などがこれまで以上に開催されると期待している。佐賀の良さを知ってもらい、また来たいと思ってもらうためには良い印象を持たれることも重要である。渋滞の発生や駐車場を探すために車がさまようなど、悪い印象を残さないためにも駐車場の円滑化についてどのように取り組んでいくのか。

答 SAGAサンライズパークは、佐賀県が進める歩くライフスタイルのシンボルのエリアとして、サンライズパークを訪れる方々には自家用車ではなく出来るだけ歩いて、公共交通などを利用して来場いただきたく、そのような方針で整備を進めてい

る。

今回の整備に当たっては、ほぼ現況どおり、約1,350台程度の駐車場を再配置したうえで、駐車場の満車や空車情報の提供、佐賀市文化会館との一体的な駐車場管理など、新しい仕組みづくりにも取り組んでいきたいと考えており、佐賀市や指定管理者とサンライズパークに関する連携会議を開催し、協議を重ねている。今後は指定管理者による駐車場管理システムの導入や、サンライズパーク、佐賀市文化会館の一体的な駐車場管理の仕組みづくり、さらにはパーキングの有料化についても手続きを進めていきたいと考えている。そして、サンライズパークを訪れる県内外からの来場者にとって利用しやすい環境づくりにしっかりと取り組んでいきたい。

JR九州駅の無人化への対応

問 JR九州は、令和4年3月のダイヤ改正に合わせ、九州管内の29の駅を無人化すると発表された。これにより、沿線住民の利便性の低下だけでなく、事故発生時の対応や防犯面での不安、障害をお持ちの方の不安、通学定期を



市町による“まち駅”づくり (イメージ)

購入する学生の皆さんの不便など、様々な声を耳にしている。こうした中、県は今後、駅の無人化にどのように対応していくのか。

答

JR九州の今回のダイヤ改正に合わせて駅の無人化に伴い、県内の約7割の駅が無人駅となる。こ

の駅体制の見直しについて、市町からは、懸念や不安、困惑など様々な声があった。

一方、無人駅ではあるが、地域住民によるカフェやマルシェの開催など、市町や地域で工夫してまちづくりの拠点として活用している例もある。市町が地域の方と一緒に、駅の無人

という状態を解消するような事業を行うのであれば、県で事業費を支援できるように、令和4年度から無人駅対策事業を行うこととしている。

地域にとつて駅はまちの顔であり、暮らしや文化、交流の拠点として、市町のまちづくりにとつて非常に重要な場所と考えている。市町にはそれぞれの駅に合ったやり方で無人駅を安心で楽しいまちのシンボルにする「まち駅」づくりを住民の皆さんとともに考え、取り組んでいただくことを期待し、その取り組みを県も後押ししていく。

健康福祉



不妊治療の支援(相談支援の取組)

問

国において令和4年4月から体外受精などの不妊治療が保険適用となることが示された。

県ではこれまでも「子育てし大県」さが「プロジェクト」に取り組み、子どもを持ちたいと願う方への支援として、不妊治療助成事業を行ってきており、保険適用後も、そつした方々に寄り添った支援が

必要と考える。不妊治療の支援について、県は今後どのように取り組んでいくのか。

答

不妊に悩む方々への相談支援として、県では佐賀中部保健福祉事務所内に不妊・不育専門相談センターを置いて相談を受けるとともに、各保健福祉事務所でも、担当の保健師が相談を受けている。また、令和4年度からは、働いている方や佐賀市から離れている地域にお住まいの方がより相談がしやすくなるよう、新たにオンラインによる環境を整え、相談体制の充実を図ることとしている。

多くの方が不妊に悩まれ、その悩みの内容も様々である。

そのような一つ一つの声に耳を傾け受け止めながら、子どもを持ちたいという願いをお持ちの方々に寄り添っていけるよう、引き続き取り組んでいく。





産業労働



中小零細企業へのDXの取組



県は、令和4年度当初予算案で「DX」コミュニケーター事業を提案し、年間1,000件を目標に県内企業を訪問、産業スマート化センターへつなぐ役割を担うとのことである。

事業展開に当たってはぜひ、中小零細企業の目線や視点に立ち、裾野の拡大につながるよう取り組んでもらいたい。今後どのように進めていくのか。



県では、平成30年に全国初となる産業DXの支援に特化した産業スマート化センターを開設し、DXに関するセミナーの開催や、1Tに精通したスタッフによる個別相談、相談した企業が抱える課題に対応できる1T企業とのマッチングなどに取り組んでいる。こうした取組みの結果、スマート化センターの利用者数は令和2年度は前年比1.6倍の延べ約2,600名と急増したが、今後はさらに多

佐賀県産業スマート化センター Industry4.0 AI-IoT Business Innovation



▲スマート化センターショールームの様子(佐賀市)



▲サポート企業一覧

くの県内企業に浸透させていくことが課題と認識している。

このため、令和4年度は新たに「DXコミュニケーター」を配置し、これまでのように、産業スマート化センターへ相談に来られるのを待つだけでなく、こちらから県内企業へと出向き、

1TやDXなどに対する不安や疑問を払拭しながら取組みを促していきたいと考えている。

県内中小零細企業の方々にもDXを「自分事」として捉えていただけるよう、商工団体とも連携し、実効性のあるものとしていく。

DX(デジタルトランスフォーメーション)企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

農林水産

有明海西南部地区の ノリ養殖の振興

問 有明海の主力漁業であるノリ養殖は、昨年度まで18年連続で日本一の生産量、生産額を続けている。しかし、西南部地区と呼ばれる白石町から鹿島市、太良町沿岸のノリ漁場では、秋芽網期から栄養塩不足による色落ち被害

が発生し、12月末から始まった冷凍網期でも大規模なノリの色落ち被害が続くなど、地域差が大きくなっている。西南部地区のノリの安定生産に向け、県は今後どのように取り組んでいくのか。



県はこれまで、漁協や佐賀大学と連携し、西南部地区のノリの安定生産に向けて、色落ちの原因となる珪藻プランクトンを捕食するタテアライギやアゲマキなどの二枚貝の種苗生産、放流技術の開発など、様々な取り組みを行ってきたところであるが、同地区の厳しい状況を踏まえ、有明海の実情に応じた特別な措置(有明海特別措置法第22条)が講じられるよう、政



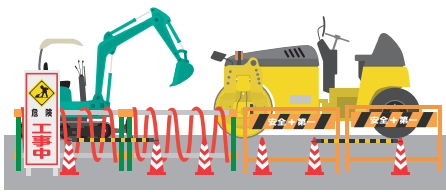
▲写真左：正常な海苔、写真右：色落ちした海苔



九州佐賀国際空港と高速道路を
結ぶ幹線道路網として、有明

問 県東部地域については、国道34号の慢性的な渋滞は解消できていないものの、東西の横軸は一定程度整備されていると思うが、問題は南北の縦の幹線ルートが無いことである。

長崎自動車道東脊振インターチェンジから佐賀空港までの高規格道路という南北の軸ができれば、県東部地域や南部地域は飛躍的に発展していくと考えるが、県の見解を伺いたい。



県土整備



県東部地域における 高規格道路の整備

策提案などの機会を捉え、国に対し要望していくこととしている。

今後も漁協や国、大学などと連携を強化し、有明海のノリ養殖の生産安定につながるよう、赤潮の発生予察技術の確立や赤潮を抑制する二枚貝の増殖などにしっかりと取り組んでいく。

海沿岸道路、佐賀唐津道路を經由し、いわゆるTゾーンを通って、高速道路の佐賀大和インターチェンジへつなげるルートを考えており、整備を着実に進めているところである。

県東部地域は、交通の利便性が高く、流通業や製造業の立地が進み、定住人口が増加するなど、大変潜在能力の高い地域であり、その県東部地域にある東脊振インターチェンジと九州佐賀国際空港を高規格道路で結ぶというのは、夢のある興味深い提案であると考ええる。

現在、九州佐賀国際空港へのアクセス道路となる有明海沿岸道路などの整備を進めているが、本県の将来の発展につながる幹線道路網については、新たな交通の課題や社会情勢、幹線道路網の整備状況などを見ながら、今後とも考えていくこととしている。

教育



小学校の教科担任制、 教員の確保

問 文部科学省は、令和4年度から小学校高学年の外国語、算数、理科、体育の4教科を優先教科として、教科担任制を導入する。具体的な実施方法は、各教育委員会や現場に委ねられているが、今後、どのように取り組んでいくのか。

答 県では、これまでも英語や理科など、特定の教科について専門的に指導する、いわゆる専科指導として専門性の高い教科指導の充実を図ってきた。

小学校で教科担任制を導入することにより、児童にとっては、より質の高い授業を受けることができる点、教科担任制である中学校への接続が円滑になる点、また、教員にとっては、教材作成や授業の準備などの負担が軽減され、子どもと関わる時間を増やすことができるといった点などの効果が期待できると考えている。

県内全ての小学校、義務教育学校で教科担任制を実施するためには、必要な教員の確保と計画的な加配措置が必要であり、教科担任制の推進に向けた定数改善を図るよう、国に対して政策提案を行っていきたいと考えている。

県教育委員会としては、これまでの専科指導の成果も踏まえながら、小学校における教科担任制を積極的に進めていきたい。

この他、県政全般について幅広い議論が行われました。

【主な質問項目】

- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応
 - ・ 玄海原子力発電所
 - ・ 佐賀県手話言語と聞こえの共生社会づくり条例の取組
 - ・ 医療的ケア児及び家族への支援
 - ・ 消防団への活動支援
 - ・ 公務員の人材確保
 - ・ 唐津プロジェクトの推進
 - ・ 移住促進
 - ・ 林業の振興
- など



各議員の質問一覧は
佐賀県議会ホームページで
ご覧ください。



総務常任委員会

県内視察を含め審議が行われ、付託議案の13件が原案可決、1件が同意、1件が採択されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（当初・補正）予算関係分
- ・人事委員会委員の選任について
- ・県庁舎敷地内などへの分煙環境整備に関する請願書



佐賀県オフサイトセンターの視察（原子力防災対策拠点施設の状況）

【主な質疑事項等】

- ・消防団の充実強化について
- ・宙への扉プロジェクト事業について など

文教厚生常任委員会

3月8日、9日の2日間にわたって審議が行われ、付託議案の14件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（当初・補正）予算関係分
- ・佐賀県立学校職員及び佐賀県市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について



質疑の様子

【主な質疑事項等】

- ・エッセンシャルワーカー処遇改善事業費について
- ・流産や死産を経験された女性等へのグリーフケアについて
- ・女性が働きやすい佐賀県づくりについて など

農林水産商工常任委員会

県内視察を含め審議が行われ、付託議案の22件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（当初・補正）予算関係分
- ・県営土地改良事業に対する市町の負担について



県営ため池等整備事業の視察（ため池整備工事の施工状況）

【主な質疑事項等】

- ・稼げる農業の実現について
- ・佐賀支え愛食事券事業について
- ・若年者の就職支援について など

地域交流・県土整備常任委員会

県内視察を含め審議が行われ、付託議案13件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（当初・補正）予算関係分
- ・佐賀空港条例の一部改正について
- ・県有財産の取得について



株サガン・ドリームスの視察（コロナ禍での運営施策、スポーツ振興の概要）

【主な質疑事項等】

- ・「はじまりの名護屋城。」プロジェクトについて
- ・SAGA2024に向けた競技力向上について など

新型コロナウイルス感染症対策等特別委員会

担当部局に対する質疑を行いました。

【主な質疑事項等】

- ・新型コロナウイルス感染症の県内での感染状況、変異株の特徴と対策及びワクチンの3回目接種や経口治療薬の状況について
- ・5歳から11歳の小児ワクチン接種の状況と効果、副反応リスクの想定及び健康な小児へのワクチン接種に対する県の考え方について など



質疑の様子

佐賀空港・有明海問題対策等特別委員会

九州防衛局長の伊藤哲也氏を参考人として招致して質疑を行い、その後「荒尾干潟水鳥・湿地センター」の視察を行いました。

【主な質疑事項等】

- ・土地価格提示の進め方や、工事期間中と運用開始後の排水対策について
- ・地元の自治会長への対応、配備問題に対する市民や県民への説明について など



荒尾干潟水鳥・湿地センターの視察

新幹線問題対策等特別委員会

国土交通省鉄道局幹線鉄道課長の川島氏と技術企画課技術開発室長の平石氏を参考人として招致し、質疑を行いました。

【主な質疑事項等】

- ・フル規格の場合の3ルート（佐賀駅経由、佐賀市北部経由、佐賀空港経由）について建設費の積算根拠及び空港ルートにおける整備工法と建設費について
- ・私鉄でのフリーゲージトレイン（軌間可変電車、F G T）の開発状況と、民間の技術開発に対する鉄道局の姿勢について など



質疑の様子

佐賀県をもっと知るため
議会を傍聴しよう！

県議会の本会議や常任委員会、特別委員会は、どなたでも傍聴できます。

受付開始 午前9時頃 受付場所 議会棟1階



県議会HP
傍聴のページ

傍聴中の託児サービス **無料**

※生後6カ月以上から小学校就学前まで
傍聴希望日の1週間前までに
議会事務局までお申し込みください。
☎0952-25-7215



各議員の質問一覧

各議員の
質問一覧の
ページ





委員会構成

- ◆議長：藤木 卓一郎、副議長：宮原 真一（令和4年4月21日選出）
- ◆常任委員会

委員会名（定数）	委員長	副委員長	委員（年齢順）
総務常任委員会（10人）	八谷 克幸	古川 裕紀	石井 秀夫、武藤 明美、大場 芳博、土井 敏行、藤木 卓一郎、江口 善紀、中村 圭一、下田 寛
文教厚生常任委員会（10人、欠員1）	川崎 常博	井上 祐輔	木原 奉文、岡口 重文、原田 寿雄、徳光 清孝、古賀 和浩、一ノ瀬 裕子、古賀 陽三
農林水産商工常任委員会（9人）	西久保 弘克	富田 幸樹	石倉 秀郷、定松 一生、坂口 祐樹、藤崎 輝樹、向門 慶人、木村 雄一、桃崎 祐介
地域交流・県土整備常任委員会（9人）	池田 正恭	野田 勝人	留守 茂幸、稲富 正敏、中倉 政義、中本 正一、弘川 貴紀、田中 秀和、宮原 真一

- ◆議会運営委員会（定数11人）

委員長	副委員長	委員（年齢順）
坂口 祐樹	池田 正恭	石井 秀夫、武藤 明美、大場 芳博、石倉 秀郷、中倉 政義、徳光 清孝、定松 一生、古賀 陽三、下田 寛

- ◆特別委員会

委員会名（定数）	委員長	副委員長	委員（年齢順）
新型コロナウイルス感染症対策等特別委員会（12人、欠員1）	原田 寿雄	下田 寛	石倉 秀郷、岡口 重文、池田 正恭、定松 一生、古賀 和浩、川崎 常博、一ノ瀬 裕子、木村 雄一、古賀 陽三
佐賀空港・有明海問題対策等特別委員会（12人）	土井 敏行	弘川 貴紀	留守 茂幸、稲富 正敏、武藤 明美、大場 芳博、中倉 政義、野田 勝人、田中 秀和、江口 善紀、坂口 祐樹、古川 裕紀
新幹線問題対策等特別委員会（12人）	木原 奉文	中村 圭一	石井 秀夫、八谷 克幸、徳光 清孝、中本 正一、富田 幸樹、西久保 弘克、藤崎 輝樹、向門 慶人、桃崎 祐介、井上 祐輔

- ◆監査委員（定数1人）岡口 重文（令和4年4月21日選任）

- ◆競馬組合議会議員（定数3人）石井 秀夫（令和元年5月16日選出）、中倉 政義（令和3年4月22日選出）、向門 慶人（令和4年4月21日選出）

2月定例会で条例などが次のとおり可決及び採択されました。

■ 条例（18件可決）

- 佐賀県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例の一部を改正する条例

佐賀県議会議員の定数を38人から37人に改め、伊万里市選挙区において選挙すべき議員の数を3人から2人に改める。また、唐津市・東松浦郡選挙区の名称を唐津市・玄海町選挙区に、鹿島市・藤津郡選挙区の名称を鹿島市・太良町選挙区に、神崎市・神埼郡選挙区の名称を神崎市・吉野ヶ里町選挙区に改める。

- 佐賀県文化財保護条例の一部を改正する条例

文化財保護法が改正されたことを踏まえ、佐賀県登録文化財制度を創設する。

【目的】

指定に至らない文化財、埋もれている多種多様な文化財に対し、文化財の裾野を広げ、幅広く緩やかな保護の網をかけることで、一層の文化財の保存及び活用の推進を図る。

【規定内容】

- ・文化財の登録
- ・登録文化財の管理についての指導・助言 など

- 佐賀県都市計画法施行条例の一部を改正する条例

都市計画法及び都市計画法施行令の一部改正に伴い、市街化調整区域において特例的に開発が認められる区域（50戸連たん）を指定する場合に、頻発・激甚化する自然災害に対応し、安全なまちづくりを推進するため、災害ハザードエリアを原則除外する。

他15件

■ 意見書（1件可決）

- 有明海佐賀県海域西南部でのノリ大凶作に対する対策を求める意見書

■ 決議（1件可決）

- ロシアによるウクライナ侵略に断固抗議し、即時撤退を求める決議

■ 請願（1件採択）

- 県庁舎敷地内などへの分煙環境整備に関する請願書

その他の条例案等はこちら→

令和4年2月定例会
議案採決結果一覧表（PDF）

